

地域子育てセンター「ゆりかもめ」の歴史 6

～ 「ゆりかもめ」の原点補論 ～

子育て支援の結節点は「ゆりかもめ一時預かり保育所」かもめ組だ。「ゆりかもめ」は創設の初期から「一時預かり保育所」を運営してきた。

ここは

- ① 社会館保育園のショーウィンドー（本園の子供達がよく見える）
- ② 利用者達へのアンテナショップ（今風の親達の傾向が割にあからさまに出る。本園の親達は気を付けていて余り見えない。）
- ③ 親子独立の第1歩
- ④ 保育所に入所できないが、入所決定を待てない親子の緊急避難の場所
- ⑤ 新たに保育園に入る時の慣らし保育の場所（他の保育所に入る時にもその様に活用されるらしい。）
- ⑥ どのような理由でもお子さんを預かる融通無碍の場所。

実に不思議な保育施設であり、そこの職員は、相当の力量が必要とされる空間だ。

ここで創立の初期から10年間近く中心的な役割を果たして、利用者の「カモメ組」への信頼を確かなものにしてきて下さったのが、吉川繁美先生であった。先生は社会館の乳児室のベテラン保育士だった方で、どのような時でも、「助けて！」という利用者の声を受け容れて、「絶対に断らない」をモットーにしておられた。世間を知らない、子育てが苦手な若い親達を相手に、信頼と安心を勝ち得てきた指導者。その人徳と保育者としての総合力は大変なものがあつた。カモメ組の現在の基本的な方法を確立して下さったのも先生であつたと言ってよい。

先生がお辞めになる前年、2005年「ゆりかもめ」かもめ組の年間利用者は、5000名を記録。この頃より幼稚園等の「一時預かり体制」の整備が進んだこともあるが、2006年度利用者は4700名、2007年度は4000名、2009年度のそれは、3500名と見込まれている。3500名という数字でも大変な実績と言ってよい。「ゆりかもめ」の原点である「一時預かり保育所カモメ組」。その利用者からの信頼を正面から受け止めて行くべく、園長として決意を新たにしたい。

2009年12月